

ベナンの風便り

2009年4月号

みなさん進級、そして入学おめでとございます。1年生の皆さんはじめまして。現在青年海外協力隊員として西アフリカのベナン共和国という国で、理数科教育の普及、改善に関する活動をしている赤石です。今年度も任期終了の3月まで毎月「ベナンの風便り」として、ベナンの文化や諸問題、そして活動や人々の生活などについてお伝えしていきたいと思ひます。

今回はベナン共和国のみならず、多くの途上国で問題になっているゴミ問題についてお伝えします。

どうなる？どうする？ゴミ問題



左の写真は町の様子。すべての道がこのようになっているわけではありませんが、道のわきには必ずと言っていいほどゴミがたまっています。そして右の写真。豚が有名な村の競り市の様子。豚が生活している場所はゴミの中、もちろんその中にたくさん混ざっているサッシェと呼ばれるビニル袋も豚の胃の中に。そしていずれそれらは私たち人間の体の中に入ります。またこの様子は町中で見られ、家畜にされている羊や鶏が黒いサッシェをつついてる姿をよく見ます。環境だけでなく衛生的にも悪く、人間にも害を及ぼしているだろうと思われるこのゴミ問題。どうしてこのようなことが起こっているのでしょうか？

昔から人々は自給自足の生活を送っていました。食べられるところは全て食べ、わずかに出たゴミは、畑などの肥料として利用していたのです。しかしながら近年、先進国からビニル製品やプラスチック製品などが急速に広まってきました。ただ残念なことに利便を追求するあまり、それら処理する方法は伝えられなかったのです。人々は昔のように出たゴミをその辺に捨てます。しかしながらそれらは土には還らず、どんどん溜まっていく一方です。私が住む町

は首都ということもあり、NGO がゴミの回収を行ったりもしています。しかしながら回収してもらうにはお金が必要で、一般の人は利用することができないのが現状です。また NGO 自体ゴミの処理施設を持っているわけではないので、まとめてどこかに捨てている状態なのです。なのでゴミの処理と言えばたまたま道端にたまったゴミに火をつけて燃やすくらいです。(利用価値のある空き缶や空きビンなどは売ることができるので捨てません。中にソースや飲み物を入れて売るときに使えます。使えるものは無駄にせず利用していてもこの結果なのです。)

ベナン人たちは基本的にはきれい好きで、毎朝ほうきで家の周りなどを掃除します。でも習慣となってしまっている「ゴミのポイ捨て」は変わりません。結局朝掃除をされない場所にはゴミがどんどん溜まっていきます。これは学校内でも同じです。教室の中は毎朝掃除をしています。しかし一歩外に出るとわきにはゴミが溜まっています。私自身もこの状況を少しでも改善しようと取り組んでいます、人々の「習慣」を変えることは本当に難しいです。

しかしながらベナン側が何もしていないわけではありません。NGO が朝道端の掃除を行ったり、また問題となっている黒いサッシェを活用して、バックや財布などを作ったりしています。隊員の中にはそのような活動を地域の女性グループと行って広めている方もいます。それぞれの隊員がそれぞれの分野でゴミ問題とも向き合っているのです。私たちの力は微力なのかもしれませんが、0ではありません。数年後、数十年後、花開くことを期待して活動していきたいと思ひます。



黒いサッシェで作ったバック

番外編

サッシェは捨ててばかりではありません。町の中ではサッシェをうまく利用している姿を見ることができます。特に髪が命の女性たちは、雨が降りだしたらサッシェをかぶって髪を守り、その場をしのぐ様子をよく見かけます。



雨の日にサッシェをかぶる生徒



サッシェを利用した服？

ブログ更新中

ベナンでの生活の様子を伝えるためのブログを作成しています。毎日更新することはできませんが、これからの世界を生きる皆さんに異国の様子を少しでも知ってもらえると嬉しいです。

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>